

2022年12月 東京地区百貨店売上高概況

2023年1月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1,767億円余
2. 前年同月比(増減率)	8.0%(16か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭8.2%(90.5%)：非店頭5.4%(9.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 23店 (2022年11月対比±0店)
5. 総店舗面積	758,082㎡ (前年同月比：-5.5%)
6. 総従業員数	14,602人 (前年同月比：-4.7%)
7. 3か月移動平均値	5-7月 30.2%、6-8月 21.6%、7-9月 26.5%、 8-10月 26.3%、9-11月 16.2%、10-12月 10.3%

[参考] 2021年12月の売上高増減率は11.1%

【特徴】

- (1) 12月の東京地区は、売上高8.0%増と16か月連続のプラスとなった。ラグジュアリーブランドや宝飾品等の高額商材が引き続き好調だった他、インバウンドの急回復に加えて、年末商戦も活況で、商況全般を好転させた。コロナ前との比較では、消費増税の反動が残る2019年比では、売上高1.0%増、特殊要因のない2018年比では売上高2.3%減と、ほぼコロナ前の水準に戻ってきた。
- (2) 商品別では、主要5品目の内、家庭用品を除く4品目がプラスとなった。主力の衣料品(7.8%増/15か月連続)は、気温低下に伴い、コート等重衣料が好調だった他、クリスマスのギフト需要を受け、マフラー、手袋等の防寒用品にも動きが見られた。
- (3) 身のまわり品(21.6%増/16か月連続)と雑貨(9.1%増/16か月連続)は、冬期賞与の増額やインバウンド需要を背景に好調に推移し、2019年と2018年の実績を共に上回った。特にラグジュアリーブランドのバッグやアクセサリが高伸した他、時計・宝飾品も好調だった。また、帰省や旅行の増加でスーツケース等の鞆類にも動きが見られた。
- (4) 食料品(3.2%増/16か月連続)は、クリスマスケーキや帰省・御年賀用手土産の和洋菓子が好調に推移した。惣菜も人の集まる機会の増加からオードブル等が人気だった。歳暮とおせちはほぼ前年並みで推移した。
- (5) 2022年年間売上高は、19.7%増(2年連続/1兆4,505億円)と二桁の高い伸び率を記録。2019年比では9.0%減と、前年(2021年24.0%減)より15.0ポイント改善し、順調な回復ぶりを示した。1月中間段階の商況は、前年比13.6%増(1/18時点)で推移している。2020年比で見ても約3%減で推移しており、回復基調は続いている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した：14店、②変化なし：2店、③減少した：2店
- (3) 12月歳時記(年末商戦(歳暮、クリスマス、年末年始商材))の売上(同上/有効回答数13店舗)
①増加した：5店、②変化なし：7店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2022年12月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	176,730,682	100.0	8.0
紳士服・洋品	12,228,131	6.9	5.7
婦人服・洋品	24,066,468	13.6	11.2
子供服・洋品	2,050,015	1.2	0.1
その他衣料品	1,924,746	1.1	-8.0
衣 料 品	40,269,360	22.8	7.8
身のまわり品	28,290,877	16.0	21.6
化粧品	13,414,578	7.6	4.1
美術・宝飾・貴金属	17,753,683	10.0	14.2
その他雑貨	5,607,831	3.2	6.2
雑 貨	36,776,092	20.8	9.1
家 具	1,617,816	0.9	1.9
家 電	876,242	0.5	5.8
その他家庭用品	3,837,455	2.2	-2.6
家 庭 用 品	6,331,513	3.6	-0.4
生 鮮 食 品	7,275,538	4.1	-1.7
菓 子	17,484,389	9.9	6.5
惣 菜	14,156,348	8.0	3.9
その他食料品	18,439,662	10.4	1.7
食 料 品	57,355,937	32.5	3.2
食 堂 喫 茶	2,508,347	1.4	4.3
サ ー ビ ス	2,598,886	1.5	51.4
そ の 他	2,599,670	1.5	-21.4

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	3,634,898 千円	-5.8
従 業 員 数	14,602 人	-4.7
店 舗 面 積	758,082 m ²	-5.5

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、家庭用品を除く4品目でプラスとなった。
 その他の品目は、婦人服・洋品が16か月連続、美術・宝飾・貴金属が23か月連続でプラスとなったほか、家具が3か月ぶりにプラスとなったが、生鮮食品が3か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.0	—	16か月連続プラス
紳士服・洋品	5.7	0.4	14か月連続プラス
婦人服・洋品	11.2	1.5	16か月連続プラス
子供服・洋品	0.1	0.0	6か月連続プラス
その他衣料品	-8.0	-0.1	3か月連続マイナス
衣料品	7.8	1.8	15か月連続プラス
身のまわり品	21.6	3.1	16か月連続プラス
化粧品	4.1	0.3	16か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	14.2	1.3	23か月連続プラス*
その他雑貨	6.2	0.2	10か月連続プラス*
雑貨	9.1	1.9	16か月連続プラス
家具	1.9	0.0	3か月ぶりプラス
家電	5.8	0.0	3か月連続プラス
その他家庭用品	-2.6	-0.1	3か月連続マイナス
家庭用品	-0.4	-0.0	3か月連続マイナス
生鮮食品	-1.7	-0.1	3か月連続マイナス*
菓子	6.5	0.7	22か月連続プラス*
惣菜	3.9	0.3	22か月連続プラス*
その他食料品	1.7	0.2	6か月連続プラス*
食料品	3.2	1.1	16か月連続プラス
食堂喫茶	4.3	0.1	10か月連続プラス
サービス	51.4	0.5	9か月連続プラス
その他	-21.4	-0.4	3か月連続マイナス
商品券	-5.8	-0.1	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

東京地区百貨店 売上高速報 2022年1月～2022年12月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	1,450,564,435	100.0	19.7
紳士服・洋品	102,415,584	7.1	19.8
婦人服・洋品	217,081,880	15.0	24.7
子供服・洋品	24,671,819	1.7	9.2
その他衣料品	19,587,287	1.4	9.6
衣 料 品	363,756,570	25.1	21.2
身のまわり品	235,766,800	16.3	38.8
化粧品	115,614,244	8.0	12.2
美術・宝飾・貴金属	159,589,053	11.0	34.3
その他雑貨	49,601,788	3.4	9.7
雑 貨	324,805,085	22.4	21.6
家 具	15,909,645	1.1	8.5
家 電	11,546,024	0.8	4.2
その他家庭用品	34,971,020	2.4	4.4
家 庭 用 品	62,426,689	4.3	5.4
生 鮮 食 品	48,177,436	3.3	-1.7
菓 子	114,597,117	7.9	20.1
惣 菜	88,074,957	6.1	12.4
その他食料品	134,177,277	9.3	7.2
食 料 品	385,026,787	26.5	10.7
食 堂 喫 茶	24,582,621	1.7	41.1
サ ー ビ ス	26,122,446	1.8	33.3
そ の 他	28,077,437	1.9	-7.4

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	23,587,430 千円	-1.5
従 業 員 数	178,926 人	-5.2
店 舗 面 積	9,450,829 m ²	-2.2

営 業 日 数	30.2 日	前年	30.2 日
---------	--------	----	--------

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>